

今夏の電力需給状況について

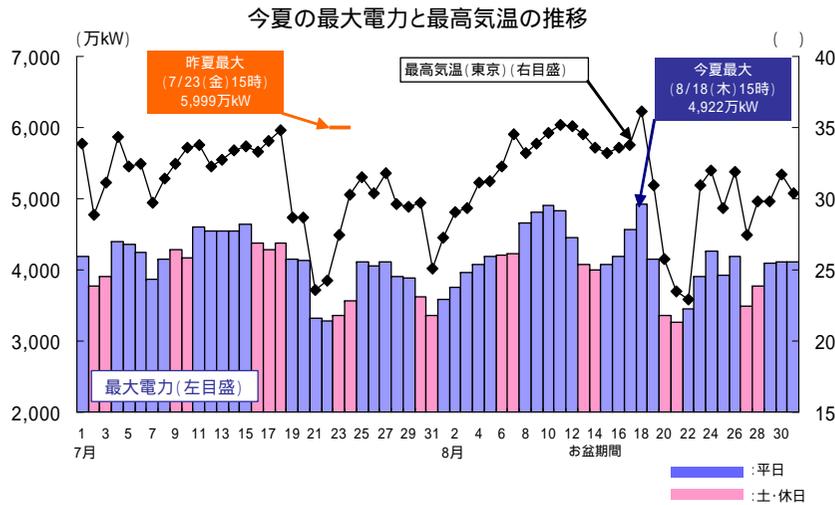
平成23年 9月26日
東京電力株式会社

1. 今夏（7～8月）の気象状況・特徴

今夏は太平洋高気圧の勢力の変動が大きかったため、気温水準が大きく変動した。関東甲信越地方の梅雨明けは7月9日(土)と、平年(7月21日)より12日早く、梅雨明け直後の7月中旬や8月中旬に高気温が連続して発生したが、最高気温が25℃を下回る日もあった。夏を通じて見れば、記録的猛暑であった前年を下回る気温水準となった。(平年と比べると7月は1.5℃高く、8月はほぼ平年並みとなった)
(注) 数値や日付は気象庁調べ

2. 今夏の最大電力の発生状況ならびに最高気温の推移

今夏の最大電力は、東京地方において今夏の最高気温 36.1℃ を記録した8月18日(木)の4,922万kW。(当日の供給力は5,460万kWを確保)これは、前年度実績(7月23日(金)5,999万kW、東京地方最高気温 35.7℃)を下回った。



＜最高気温の推移（旬別平均）＞

	7月				8月			
	上旬	中旬	下旬	月間	上旬	中旬	下旬	月間
今年	32.0	32.6	28.5	30.9	31.7	33.2	29.1	31.2
平年	27.8	29.4	30.8	29.4	31.4	31.2	30.7	31.1
前年	29.9	31.3	33.5	31.6	32.6	33.6	34.4	33.5
平年差	4.2	3.2	2.3	1.5	0.3	2.0	1.6	0.1
前年差	2.1	1.3	5.0	0.7	0.9	0.4	5.3	2.3

＜今夏の最大電力実績＞

順位	日付	曜日	最大電力	発生時間	最高気温
1	8月18日	(木)	4,922万kW	15時	36.1
2	8月10日	(水)	4,900万kW	15時	34.6
3	8月11日	(木)	4,837万kW	14時	35.2
4	8月9日	(火)	4,817万kW	15時	33.9
5	9月14日	(水)	4,701万kW	15時	32.3
過去最大	H13.7.24	(火)	6,430万kW	14時	38.1
前年最大	H22.7.23	(金)	5,999万kW	15時	35.7

(注) 最高気温は東京地方(気象庁調べ)

3. 今夏に向けた供給力確保状況

震災発生以降、今夏の高需要発生に備え、8月末に向け、以下の供給力対策を実施することで、設備量として約2,000万kW(8月末時点)の供給力を確保。

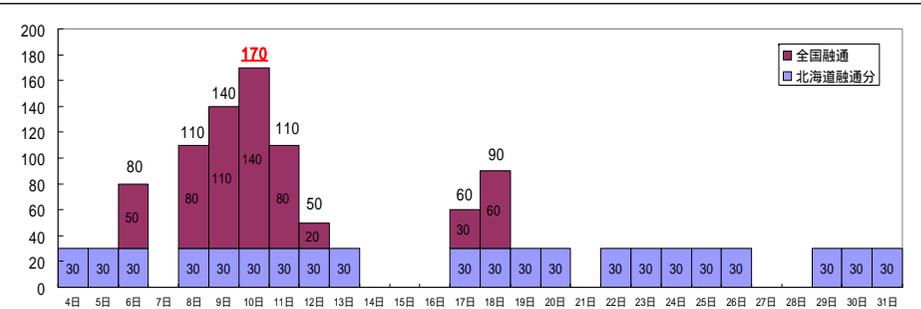
被災による停止からの復旧
長期計画停止火力の運転再開

緊急設置電源の新設
自家発電設備の更なる活用

供給力対策	対策内訳	設備量(万kW)	備考
被災による停止からの復旧	地震により停止した電源...13台 千葉2-1T、横浜8-4T、五井4T、大井2.3T、東扇島1T、鹿島2.3.5.6T、広野2.4T、常陸那珂1T	848	全台復旧済み(7月)
	停止中に被災した電源...5台 鹿島1.4T、広野1.3.5T	340	全台復旧済み(7月)
	(他社水力) 電源開発...1箇所	68	復旧済み(7月)
	(他社火力) 共同火力...3箇所(8台) 上記の他、2箇所(3台)が本年末の運転再開を 目指し、復旧作業中	163 ^(*)	8台復旧済み(7月)
	(他社火力) IPP...8箇所(10台)	184 ^(*)	全て復旧済み(7月)
緊急設置電源の新設	今夏設置の緊急電源ユニット...7箇所 姉崎、横須賀、袖ヶ浦、川崎、常陸那珂、大井、千葉 千葉3-2T、大井2GTは9月運開に工程変更 9月22日に全ての緊急設置電源が営業運転開始	129	緊急設置電源 全設備量 171万kW
長期計画停止火力の運転再開	横須賀...4台(3T,4T,1GT,2GT)	87	全台運転再開(7月)
自家発電設備の更なる活用	震災後、追加購入の実施	約110 ^(*)	自家発電設備合計 約160万kW
合計		1,930	

(*) 他社電源の発電設備量は当社権利分を示す。

＜参考＞ 東北電力への融通実績(8月)



北海道融通分: 北海道・本州間電力連系線を通じ、北海道電力から当社が受電する契約になっている30万kW分。
全国融通: 実運用における電源事故や需要急増による需給ギャップ発生への対応として、全国的な需給安定確保のため、一般電気事業者間で緊急避難的に融通し合う電力融通。